

# 新潟職能短大通信

## 歴史にみる日本の地震

日本では過去に多くの大地震が発生し、それらに関する文献等が多く残っています。

菅原道真は方略試(国家公務員試験)で「地震(ないふる)を弁ぜよ(論じよ)」という題目を課されました。これは前年に発生した貞観地震(八六九年、震源が東北地方太平洋沖地震とほぼ同じ地域で、津波による被害が甚大でした)への対応が国家的課題となっていたものと考えられます。

「方丈記」の著者である鴨長明は元暦の大地震(一一八五年)の体験から「恐れのかなに恐るべかりけるは、只地震なりけりとこそ覚え侍りしか」と、世の中で一番怖いものは地震だと述べています。

地震(一五九六年)で天守閣は崩壊しました。

新井白石は元禄一六年(一七〇三年)の大地震の際に、「家たふれなば、火こそ出べけれ。燈うちけすべきものを」と叫びながら出仕先の甲府藩江戸屋敷に駆けつけました。「地震がきたらまず火を消せ」という今日にも通用する地震標語です。

越後三条地震(一八二八年)では七一歳の老体おして三条まで足を運んだ良寛が惨状を目にし、「地震後詩」に詠んでいます。寺田寅彦は関東大地震(一九二三年)等の地震調査から「天災は忘れた時分に来る」と述べています。災害に関し、歴史から学ぶことは多くあります。

新潟職業能力開発短期大学校  
住居環境科教授 時田一雄

# 大倉翁と新発田 (二十四)

川瀬勝一郎

大倉翁人柄

事業への取り組み

翁は十八歳で出府、九十歳をこえる晩年まで第一線で活躍、実業界のみならず交流が広がったが、交流のあった方々が翁についての印象を書き残しているが、翁の印象がうかがえるものが多い。

▲後藤藤平「大倉喜八郎氏はまれな商儻だった。その出身、出世の経歴を見れば明治の生んだ立志伝中の最たるもので、成功には決して偶然ではないという道理が会得せられる。翁の巨大成さしめたものは、商機を見る奇才、断固として行う膽略に富んでおったことである。

▲石黒忠恵「翁は責任を非常に重んずる人であった。そうして膽力があり、機を見るに敏であり、意思が強固であったが、中でも意志の強いのが一番目立っていた。

▲徳富蘇峰「翁は実業界における快男児であった。余は一個の老書生で、実業家でもな

く、政治家でもない。但し相交ること三十年、翁のとるべきは勇氣であり、雅気であることが翁の生きざまであることは充分感得できた。

▲松下芳男「明治三十五年頃だと思うが、翁は初めて新発田に帰省、三の丸小学校を参観し体操場で訓示をしたことがあった。この時代には「新発田出身のえらい実業家大倉さん」と言っていた。私どもの尊敬の的であった。

▲香川鍊弥「……大倉製糸工場の設立についてはまづその必要条件である水質検査を行っていているが、その結果は製糸に不適當でないがかなりの懸念があった。翁は出生地の産業勃興のため、成敗を顧みず決断をされたのである。



一市内各小・中学校指定靴販売店一

## 靴の ナベタニ

中央町本店/新発田市中央町1丁目 ☎22-2712  
コモタウンピオ21店/新発田市舟入町3丁目 ☎23-8124

労災だけじゃものたりない!

あやめ共済  
一口800円から

## 24時間保障です。

詳しくは当所まで ☎22-2757

～ 美しさ 求めて ～

## Nc nob Collection

宝飾・婦人服・バッグ・アート etc.

ノブ・コレクション 新発田市御幸町 1-2-18 TEL.24-4692

新発田の葬送と共に、創業100年 “愛すれば～まち・ひと・こころ～”

## ご葬儀は

【葬儀・生花花環・仏壇仏具・霊柩車】  
24時間受付 TEL(0254)22-2882 (代表)

# マルフチ葬祭

どちらの式場へも病院から直接ご安置が出来ます(安置室完備)

“桜のぬくもり” 緑町斎場 アートホール桜 (国道7号沿、二葉小前)

“城下のやすらぎ” 大手町斎場 メモリー+新発田 マルフチ会館 (新発田城近、西高校前)

koyanagi

## 小柳産業株式会社

TEL 0254-22-7010 ☎ 0120-538-587